

資 料 編

1 コウノトリと越前市との歩み

里地里山の営みとコウノトリ

里地里山の自然は、人が手をかけて守ってきた自然です。人の働きかけのなかで、水田や湿地、小川、河川、溜池に多くの生きものが生息していました。小川や、水田のふちに設けた水溜りや溝が、夏場でも干上がることのない生きもののすみかとなっていました。また、水田と小川、そして河川との間に段差がなく、魚類をはじめ多くの水辺の生きものが、水田と河川を行き来し、生息していました。

しかし、今日では、河川と用排水路・水田の段差や乾田化などによって、生きものが少なくなりました。

また、かつての里山は、さまざまな木が植えられ、それらは定期的に管理され、薪などの燃料や建材として、落ち葉は堆肥として利用されました。しかし、現在、薪や炭が利用されなくなり、化学肥料の使用により堆肥として落ち葉も利用されなくなるなど、暮らしの変化によって山が管理されなくなっています。

明治時代の乱獲などにより個体数が激減していた日本の野生コウノトリは、このような環境の変化と、巣づくりに適した松の減少、農薬の多用などによって、昭和46年に絶滅しました。

いのちのつながり

生きもののいのちはつながっています。このつながりは、私たち人間にも無関係ではありません。たくさんのいのちがつながることで、私たちは食料をはじめさまざまな自然の恵みを利用することができます。古くから里地里山では、人の営みの中で人間がほどよく自然に手を加えることで、豊かな生きもの同士のつながりが生まれました。

このような、里地里山の生きもののつながりの頂点に立つのがコウノトリです。コウノトリは肉食の鳥類で、1日約500g（飼育下でのデータ）の餌が必要です。

コウノトリの暮らす自然環境には、多様ないのちのつながる生態ピラミッドが必要です。このようなコウノトリもすすめる豊かな里地里山の生態ピラミッドを取り戻すことは、私たち人間が持続的に自然の恵みを利用し、健康で豊かに暮らすことができる里を取り戻すことでもあります。

コウノトリと越前市のかかわり

本市には、絶滅が危惧された昭和 30 年以降もコウノトリとの縁があり、数回にわたり飛来した経緯があります。コウノトリは、国の特別天然記念物で、翼を広げると 2 m にもなり、その姿は非常に優雅で縁起の良い鳥として知られることから、多くの人々に親しまれました。

【コウノトリと越前市のかかわり （絶滅が危惧された昭和 30 年以降）】

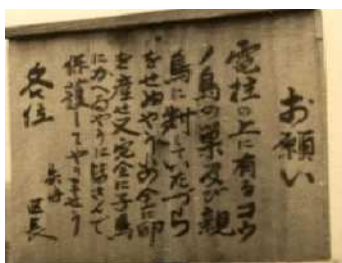
年 月	できごと
昭和 30 年 4 月	矢船町に 2 羽のコウノトリが飛来
昭和 32 年 3 月 ～昭和 39 年 3 月	矢船町でコウノトリが営巣し、保護活動が行われる
昭和 39 年 5 月	コウノトリが福井県の県鳥に指定
昭和 42 年 12 月	コウノトリが福井県の県鳥の指定から解除
昭和 45 年 12 月	白山・坂口地区にクチバシの折れたコウノトリが飛来。地域住民による熱心な保護活動が行われ、「コウちゃん」と命名
昭和 46 年 2 月	衰弱した「コウちゃん」を捕獲し、兵庫県豊岡市の保護増殖施設に移送
昭和 52 年 1 月	国高地区にコウノトリが飛来
平成 22 年 4 月 ～7 月	豊岡市から巣立った放鳥 2 世のコウノトリが白山地区に飛来。「えっちゃん」と命名され、王子保地区などに滞在
平成 23 年 3 月	王子保地区に再びコウノトリ「えっちゃん」が飛来
平成 23 年 8 月	坂口地区にコウノトリが飛来
平成 23 年 12 月	白山地区でコウノトリの飼育・繁殖事業開始
平成 24 年 4 月	王子保地区に再びコウノトリ「えっちゃん」が飛来
平成 25 年 5 月	白山地区で飼育されているコウノトリが 5 個の卵を産卵(すべて無精卵)
平成 25 年 5 月	坂口地区にコウノトリが飛来
平成 26 年 4 月 ～5 月	白山・王子保地区にコウノトリが飛来
平成 26 年 5 月	飼育コウノトリ、托卵により 3 羽のひな誕生 「げんきくん」「ゆうきくん」「ゆめちゃん」
平成 27 年 2 月 ～12 月	白山・坂口・北新庄地区にコウノトリが飛来
平成 27 年 10 月	白山地区にて「げんきくん」「ゆめちゃん」を放鳥 コウちゃんの飛来から 45 年目に大空に返す約束が果たされた。

年 月	できごと
平成28年1月 ～12月	白山・坂口・王子保地区にコウノトリが飛来
平成28年5月	白山地区菖蒲谷町コウノトリ飼育ケージの上に J0481(オス)、J0041(メス)が巣づくりを行う。(産卵なし)
平成28年5月	飼育コウノトリ、托卵により2羽のひな誕生 「たからくん」「さきちゃん」
平成28年9月	坂口地区にて「たからくん」「さきちゃん」を放鳥。
平成29年2月 ～12月	白山・坂口・神山・王子保地区にコウノトリが飛来
平成29年2月	白山地区菖蒲谷町コウノトリ飼育ケージの上に平成28年に続き J0481(オス)、J0041(メス)が巣づくりを行い、県内の野外コウノトリ51年ぶりの産卵。
平成29年5月	飼育コウノトリ、托卵により2羽のひな誕生 コウちゃんの孫にあたる「ほまれくん」「かけるくん」
平成29年10月	白山地区にて「ほまれくん」「かけるくん」を放鳥。
平成30年1月 ～6月	白山・坂口・王子保地区にコウノトリが飛来
平成30年3月	白山地区菖蒲谷町コウノトリ飼育ケージの上に J0481(オス)、J0119(メス)が巣づくりを行う。(産卵なし)
平成30年5月	飼育コウノトリ、4羽のひな誕生
平成30年5月	王子保地区のコウノトリ人工巣塔に J0098(オス)、J0078(メス)が巣づくりを行い産卵。
平成30年6月	J0098(オス)、J0078(メス)が産卵した卵をカラスが持ち去る。
平成30年9月	坂口地区にて「ひかりちゃん」「りゅうくん」「こころちゃん」を放鳥。
平成31年3月	白山地区菖蒲谷町コウノトリ飼育ケージの上に平成30年に続き J0481(オス)、J0119(メス)が巣づくりを行い産卵。(ひなは誕生せず)
平成31年4月 ～令和元年5月	白山地区のコウノトリ人工巣塔に J0138(オス)、J0132(メス)が巣づくりを行い産卵。福井県内で55年ぶりの野外でのひなが誕生。
令和元年5月 ～7月	東部地域(南中山地区・服間地区)に初めてコウノトリ(りゅうくん)が飛来。

矢船町で暮らしたコウノトリ（昭和30年4月～昭和39年3月）

昭和30年4月、矢船町に2羽のコウノトリが飛来しました。矢船町は、日野山の北西側に位置する水田地帯で、西側に日野川が流れています。当時の水田は、土地改良事業がされておらず、小さい水田を小川がつなぎ、フナやドジョウなど多様な生きものが河川と水田を行き来していました。2羽のコウノトリは、この地で、その後9年間という長い間、営巣し生息していました。

矢船町では、この間子どもたちも含め住民全体により、観察場所が取り決められ、保護活動が行われました。豪雪の冬には、各地から餌が届けられ、保護活動も県下に拡がりました。また、電柱に巣をかけていましたが、台風で飛ばされたことから、安全面を考慮し、矢船町により人工巣塔*が設置されました。



保護を呼びかける看板



風で飛ばされた巣

白山・坂口地区に飛来したくちばしの折れたコウノトリ

（昭和45年12月～昭和46年2月）

昭和45年12月に、白山・坂口地区に1羽のコウノトリが飛来しました。地元では子どもたちが観察を行い、「コウちゃん」という名前がつけられました。しかし、その後「コウちゃん」は、下くちばしが折れており、うまく餌が捕れないことがわかりました。地元の白山・坂口地区をはじめ、矢船町からも餌が届けられ、保護活動が行われましたが、衰弱したため捕獲され、豊岡市の保護増殖施設に送られました。「コウちゃん」は、豊岡で「武生」と名づけられ、34年間大切に飼育され、1羽の子どもと4羽の孫を残しました。



昭和45年頃の都辺町



白山・坂口地区に飛来した
「コウちゃん」



捕獲された「コウちゃん」

越前市にコウノトリが戻ってきた！！（平成２２年４月～７月）

平成２２年４月１日、４０年ぶりに越前市白山地区に２羽のコウノトリが飛来しました。コウノトリはその後、越前市南部地域に移りました。２羽のうち１羽は、その後も王子保地区などに留まり、３か月以上滞在をしました。滞在中、市民公募によって「えっちゃん」という名前もつけられました。「えっちゃん」の飛来によって、地域住民が主体となり、見守り活動や観察ルールづくり、休耕田を利用した餌場づくりなどが行われました。その後も毎年「えっちゃん」を含むコウノトリが飛来し、市民からも親しまれ、平成２４年７月には、コウノトリを市の鳥に指定しました。



白山地区に飛来した２羽の
コウノトリ（手前が「えっ
ちゃん」）



コウノトリ情報交換会



「えっちゃん」の餌場づくり

野外定着に向けて

一方、福井県は平成２３年１２月からコウノトリの郷公園からつがい１組（オス：「ふっくん」、メス：「さっちゃん」）を借り受け、コウノトリの野外定着に向けた共同研究として、白山地区で飼育を始めました。

つがいは、平成２５年から平成２９年まで計２２個を産卵しましたが、全て無精卵でした。平成２６年に福井県は有精卵３個をコウノトリの郷公園から譲り受け、つがいに托卵(*1)し、福井県で５０年ぶりにひなが誕生しました。ひなは公募で「ゆうきくん」「げんきくん」「ゆめちゃん」と名付けられました。平成２８年６月には、「たからくん」と「さきちゃん」が、平成２９年５月には、くちばしの折れたコウノトリ「コウちゃん」の孫にあたる「かけるくん」と「ほまれくん」が誕生しました。

そのうち平成２７年１０月に「げんきくん」と「ゆめちゃん」が、平成２８年９月に「たからくん」と「さきちゃん」が、平成２９年１０月に「かけるくん」と「ほまれくん」が放鳥されました。平成３０年の繁殖では、つがいの飼育方法を改善したことで、４月に飼育開始から７年目にして初めて「ふっくん」と「さっちゃん」に有精卵が生まれ、５月に４羽のひながふ化しました。ひなのうち３羽は、無事巣立ちを迎え「ひかりちゃん」、「りゅうくん」、「こころちゃん」と名付けられ、９月１７日坂口地区から放鳥されました。

野外では、平成28年3月にオスの「みほとくん」、4月にメスの「ゆきちゃん」が飛来し、巣作りを始め、翌年3月には福井県内で51年振りとなる野外での産卵がありました。平成30年4月には、大塩町にオスのJ0098とメスのJ0078が飛来し、人工巣塔に巣を作り5月に産卵しました。孵化には至りませんでしたが、平成23年に市の「コウノトリが舞う里づくり戦略」が始まってから西部地区以外でのコウノトリの産卵は初めてであり、コウノトリが舞う里づくりの成果が市内に広がりを見せています。

越前市から放鳥されたコウノトリは、全国各地に飛来しており、なかでも「げんきくん」は、韓国にわたった後、日本に戻り島根県雲南市で定着し繁殖もしました。

また、「ゆめちゃん」は、全国を飛び回った後、白山地区に戻り同地区で長期滞在している野外コウノトリ「みほとくん」と行動を共にするようになり、平成31年3月に産卵しました。

令和元年5月には、白山地区安養寺町のコウノトリ人工巣塔でオスのJ0138とメスのJ0132が巣作りを行い、4月に産卵し5月にひなが誕生しました。これは福井県内で55年ぶりの出来事でした。また、同年5月から7月にかけて、東部地域の南中山地区・服間地区に放鳥したコウノトリ「りゅうくん」が飛来し滞在を続けました。コウノトリの飛来が市全域に広がりを見せています。

*1：托卵とは、巣作りや抱卵、子育てなどを仮親に託す行為のこと。



豊岡市のコウノトリの郷公園から平成26年6月にふ化した
借り受けたコウノトリのつがい
ひな（写真:福井県提供）

平成27年10月に「げんき
くん」と「ゆめちゃん」放鳥

（左）オス「ふっくん」（右）メス「さっちゃん」

（写真:福井県提供）



平成30年5月大塩町の
コウノトリ

令和元年5月～7月服間地区
に飛来したコウノトリ

令和元年5月安養寺町で誕生
したコウノトリのひな